



秋剣連

発行
秋田県剣道連盟
〒010-0914
秋田市保戸野千代田町 14-12
SAKAEビル 2F-B
TEL 018-883-0680
FAX 018-883-0663
E-mail a-kendo@abellia.ocn.ne.jp
http://akitakenren.com/

第13回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会 「中学生の部」第3位入賞

平成30年9月16日(日) おおきにアリーナ舞洲



監督 東海林 斉

都道府県対抗少年剣道優勝大会が第十三回を数える今年度、はじめて四十七都道府県チームが一堂に会しました。平成二十五年に小学生の部では準優勝を飾っていた秋田県チームですが、中学生の部では、はじめて第三位に入賞することができました。

た。今年度のオーダーは、先鋒・山田夏(勝平中三年)、次鋒・佐藤悠月(秋大附中・二年)、中堅・打川武(湯沢北中三年)、副将・福田樹也(土崎中三年)、大将・高橋京太郎(飯島中三年)という布陣でした。特に県中総体男子個人三連覇、東北大会個人二連覇を果たした大将の高橋選手と、県中総体女子個人二連覇を果たした先鋒

の山田選手は昨年に引き続き都道府県大会に出場するということで、会場の雰囲気にも飲まれず、勝負強さを発揮して、チームを牽引してくれるだろうという期待感をもって臨みました。

大会に向けての稽古は選手全員の学校が別々だったため、各学校で行うことにしましたが、県立武道館で毎週木曜日に行われる秋田県剣道連盟の稽古会には極力参加して、先生方から稽古をいただくようにしました。九月六日(木)の稽古会の際には「週間さがけスポーツ」の取材も受け、選手たちも紙面で紹介されるとあって大会に向けてモチベーションも高まったようでした。

例年同様、二週間前に宮城県で行われた都道府県大会に向けての強化練習会では、六県リーグで五戦全勝を果たしました。しかし、その後のトーナメント形式での練習試合では準決勝で岩手県に敗れ、優勝は福島県という結果となりました。都道府県大会本番で予選リーグを突破(ベスト16進出)した東北勢が秋田県、福島県、岩手県であったことを考えるとレベルの高い練習会になったと思います。

都道府県大会本番は、準決勝までの五試合で先鋒山田選手と次鋒佐藤選手がともに四勝一分と負け知らずで男子陣につないでくれたことが、第三位入賞の大きな要因だったと思います。準決勝の対岡山県戦では代表決定戦で惜しくも敗れてしまいましたが、前日の岡山県との練習試合では大将戦で勝利していることから、大きな力の差は感じませんでした。本当に惜しかったです。

今回の第三位入賞という結果は、ひとえに秋田県剣道連盟中学生強化練習会や県剣道連盟主催稽古会で稽古をいただいた先生方、出稽古のおり稽古をつけてくれた高校生、そして各学校で仲間と切磋琢磨して稽古した賜です。今後もまた選手たちは全国の頂点を目指して稽古に精進していきますので、かわらぬご支援をよろしくお願いいたします。

東北中学校剣道大会女子団体・個人優勝

秋田市立勝平中学校 小野 萌子

私は入学と同時に勝平中学校剣道部に入部しました。一年生の頃は部員が六名だったので、チームのサポートをしながら、強気で相手に向かっていく先輩方の試合をたくさん見ました。全中ではリーグ戦一回目、負けてしまったものの二回目は気持ちを切り替え勝利し、予選リーグを突破することができました。結果はベスト8に終わり、全国強豪校の強さを実感しました。

その年の冬、三年生の先輩方が引退して部員は三名となり、勝つことの難しさや仲間の大切さを痛感しました。

二年生になると後輩ができ、団体を組める五名になりました。後輩はとてもしっかりと競い合った練習をすることで、常に仲間を信じ、思いきった試合ができるように



なりました。県大会では一本をつなぎ、東北大会、全国大会への切符を掴むことができました。その後の練習ではより一層力が入り、先輩と稽古できる時間を大切にしました。

東北大会の個人戦では、初戦から厳しい試合が続きましたが、応援してくださる方々のおかげで強い気持ちを持つことができました。結果優勝することができました。初めは信じられませんが、日が経つにつれてその重さを感じました。団体戦では得意な技を発揮しチームに貢献することができたと思います。また、先鋒としての役割を充分理解し、チームの流れを作ることができました。

全国大会は先輩と一緒に試合する最後の大会だったので、このメンバーで試合ができることに感謝しながら一生懸命頑張りました。チームの目標は最終日に残り、賞状をもらうことでした。三日目のアップの途中、楽しさと反対に急に不安な気持ちが出てきました。試合が始まる直前、二階応援席から応援に来てくれた保護者の方々が、「頑張れ」と顔を出し、笑顔で声を掛けてくれました。それを見て不安な気持ちは強い気持ちに変わり、チームの士気が高



まりました。「勝敗に関わらず、とにかく楽しもう」という気持ちで相手に向かいました。落ち着いて開始線へ向かうと、仲間の気持ちが背中に伝わり、私は安心して堂々と試合に臨むことができました。最後までみんな心をひとつにし、つなぐ試合をして終わることができました。結果はベスト8、もう一つ勝ちたかった気持ちはありましたが、悔いは残りませんでした。

三年生の先輩方が引退し、現在は三名で活動をしています。最後の中学生で勝つために、来年新しく入ってくる部員に頼られるような先輩になるために、私は毎日仲間と切磋琢磨しながら、稽古に励んでいます。これからも支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、全力で進んでいきます。

第四十二回東北中学校剣道大会大会結果

平成三十年八月十～十一日
青森県武道館

男子団体

優勝 秋田北中学校
三位 土崎中学校

女子団体

優勝 勝平中学校
男子個人

優勝 高橋京太郎 (飯島中三年)
三位 三浦 輝優 (土崎中三年)

女子個人

優勝 小野 萌子
(勝平中二年)

三位 佐藤 悠月
(秋大附中二年)



恩師の思い出



秋田県剣道連盟顧問

大森 宣昌

私の恩師は岩谷文雄先生である。

平成三十年八月二十三日付秋田魁新聞に「感謝、感激、感動の三感王」と題し、文筆家岡部千鶴子さんが、亡父岩谷文雄（先生）の金足農業高校野球部監督時代の指導について「誰



もが出来ることを、誰もが出来ないほど繰り返し練習しろ」と書いている。先生は新任校の金農で十三年間教鞭をとり、野球部とラグビー部をそれぞれ全国レベルまで高められた。その指導力を評価され、昭和三十六年開催の秋田国体剣道総合優勝達成の特命を受けて秋田高校へ赴任されたという。

私は昭和三十五年四月、秋田高校へ入学した。勉強ばかりではと思い、それまで部活の経験は全くなかったが、入部前の見学会で岩谷先生の道着姿や道場に満ちる緊迫感に引かれ、不安はあったが決心した。新人部員は十七人程いたが、卒業時は七人であった。道場には「文武両道」の扁額が重々しく掲げられていた。

先生の座右の銘は「為せば成る」であり、理論的、情熱的な指導であった。毎日道場に仁王立ちし、顔を真赤にして、素振りは「一切先三寸ピリリと震えるように」、技の稽古は「コテ、メンと出ゴテがあれば勝てる」といわれ特訓した。最初と最後の先生への掛け稽古は厳しく、その最中道場を飛び出して終わっても戻ってこない部員もいた。

雪が積もると、先生の到着↓が少しでも遅くなるように、職員室出入

口から道場までの二十m間に長い蛇行する雪道をつけた。先生は物ともせずに蹴散らして入ってこられた。三年間休まれた日は一日もない。寒稽古中は汗で凍ってバリバリになった先生の稽古着を火鉢で暖めた。道場には神棚があり、御神酒を供えていたが、時々中味がなくなっていた。道場の思い出は数多く非常に懐かしい。

現在のように出稽古はあまりなかったが、昭和三十六年の春休みは東京の名門巣鴨商業高校で一週間試合練習をした。合宿が終わった午後、銭湯に入り皆で先生の広い背中を流した。だんだんと同年十月の第十六回秋田国体に向けて稽古が激しくなったが、先生との一体感は強くなった。

団体は湯沢市で開催された。各試合前には「これまでの苦しい稽古を考えてみれ。いか、負けるはずね」と肩をたたかれた。決勝戦で宿敵宮城県小牛田農林高校に惜敗したが、先生は掠れた声で一言「よし、良くやった」と迎えてくれた。私が卒業した四年後の昭和四十二年、インターハイと国体で優勝、更に翌年のインターハイでも優勝し三連続全国制覇という偉業を成し遂げた。↑為せば成った。

先生は道場では豪放磊落であった

が、離れば人情味豊かで優しくかった。おおっぴらに酒が飲める大学生になつて、時々先生の自宅へ伺った。「お、来たか」と歓待してくださったが、奥様には迷惑をおかけした。飲むほどに酔うほどに若き学生時代（東京高等師範学校）の生活ぶりや高名な先生方の教訓などを話されたが聞いているだけで強くなった気がした。酒を飲む時の心構えとして「相手が酔うまでは酔っちゃいかん」といわれ大変だった。

私が大学入学の時「秋田に戻つたら連盟発展のため頑張れ」と励まされた。卒業後、私立大学の教師を三十一年間勤めたが、その間収集した史料をもとに『武術伝書の研究（近世武道史へのアプローチ）』という小論文集を出版（平成三年一月）することができた。↑先生は大変喜ばれ「まえがき」を書いてくださった。また、県立高校の校長を勤めながら県連の理事長や会長として発展に尽力され、多くの教え子を育てられた。

私は現在、僭越ながら連盟の一役員であるが、初めて教えを受けた六十年近く前の先生の心技と「為せば成る」の精神を若い剣士達に伝えていきたいと思っている。

高校生活で学んだこと



秋田南高校剣道部 及川 拓

私たちは、「全国制覇」を目標に日々の稽古に取り組んできた。先輩方が引退し、私が主将となり、チームをまとめながら、大会に向け、努力をしてきた。だが、中央支部新人や全県新人では結果を残すことができず、悩む時期もあった。

各種遠征や日々の稽古で、目標を明確にし、課題の克服、チームでの役割を試行錯誤することで、個々の技量やチームのまとまりを高めることができた。その成果が、全国選抜ベスト16、東北高等学校剣道選抜優勝大会優勝、魁星旗ベスト8へとつながっていった。

い思いをしていたとき、監督の金森先生が「負けたことに負けるな。」と声をかけてくださった。私たちは、その言葉のおかげで立ち直ることができた。東北選手権優勝に向けて、限られた時間ではあったが、チーム一丸となつて稽古することができた。東北選手権団体優勝、個人で私が優勝することができ、金森先生以来の団体、個人優勝をすることができた。「負けたことに負けない」ことでさらに努力することができたからこそ、



東北選手権だけでなく、インターハイ個人ベスト8、国民体育大会出場へとつながつたと考える。

このような結果を残すことができたのは、応援して下さった保護者や周りの方々、ご指導して下さった先生、先輩方、支え合つてきた仲間達のおかげであり、本当に感謝している。これからは、それぞれが別々の進路に向かっていくが、秋田南高校で培つたものを誇りに、日々精進していきたい。

秋田県剣道連盟 稽古始め

平成十九年一月五日(土) 秋田県立武道館において、幼少年から一般まで一堂に会し、平成としては最後となる稽古始めが開催されました。

大道場で一斉の開会式のあと、剣道(大道場)、居合道、杖道(剣道場)に分かれて、それぞれ九十分ほど稽古に汗を流しました。

剣道の稽古始めでは、秋田県警察機動隊員の方々の指導により、準備運動・素振り、切り返し、掛かり稽古、地稽古が行われ、閉会式終了後には参加者全員に記念のクリアファイル

が配られました。

今年も秋剣連の定例稽古会は毎週木曜日、午後五時三十分〜八時まで、県立武道館剣道場で開催されます。多数の参加をお待ちしております。





七段を拝受して



植田 厚

去る五月十二日に愛知七段審査会において七段に昇段させて頂いたことができました。これも偏にこれまでご指導、また稽古をつけてくださった沢山の先生方や仲間のおかげと大変感謝いたしております。

今回の審査に臨むにあたり、私は受審資格を得る半年前に予備審査会に参加しました。そこで早めに立合の感覚や、また自分の課題などをご指摘いただき、普段の稽古でその矯正に努めようと考えました。特に立ち上がりからの間のつめ方、気をためる呼吸法、そして打ち間まで入って技を出すまでの攻防の大切さ、また課題として講師の先生方から、相手を崩して自分からもっと打つていくことが必要であるご指導いただきました。

この事を普段の稽古での取り組みとして、各稽古会や、また他地域にも出向いて稽古してきましたが、自

分の課題とされたことがうまくいかずに正直少し悩んでいました。そんな時に、数年前に神奈川から地元へ帰郷された小松幸円先生の稽古会で、最後に「打ち間までどう入って、技を出すまでどういう仕事をするかが大事ですから、打ち急がず、堂々と自信を持って」と言葉をかけていただき、私は、課題だけを変に意識してしまっていたと反省し、気持ちを切り替えることができました。

この事で当日の立合では、「攻め勝つ」「気をため我慢する」「打ち急がず」を意識し、初太刀でしっかり打ち切れた事で、その後は落ち着いて立合ができていたような気がします。

今回七段位をいただき、普段道場で子供達に指導を通して、真剣に剣道と向き合っている環境に本当に幸せを感じています。子供達に正しい剣道を教えるため、基礎基本に立ち返り、自らを正していくことが、これまで自分の昇段意欲を高め、後押しをしてくれました。これからは七段に相応しい剣道ができるよう稽古を続け、これからの厳しい「道」と覚悟し、精進していきたいと思えます。これからもご指導の程よろしくお願いいたします。

シリーズ道場紹介 第十一回

大潟村剣道スポーツ少年団

道場名

大潟村剣道スポーツ少年団

代表指導者

伊藤 一孝

稽古場所

大潟村村民体育館

南秋田郡大潟村字北二丁目一

電話〇一八五―四五―二六八五

本道場の歴史

昭和四十六年七月、高橋一郎先生・



長田純一先生・小熊一男先生の呼びかけで小学生への指導が始まる。活動が一時中断するものの昭和五十三年秋、今井宏氏・細谷正紀氏の指導によるスポーツ少年団が再開。再度、中断するが平成二年四月、小熊一男先生の指導によるスポーツ少年団が再開し現在に至る。なお、スポーツ少年団登録は平成三年四月からとなっている。

「気」は他のスポ少に負けていないと思っっています。なかなか試合の結果には結びついていませんが、「継続は力なり」と日々の稽古で自分の成長を実感できるように心掛けています。

毎週火・木曜日
午後六時～七時三十分

地域内の交流も積極的に行い、南秋練成会や出稽古など月一回程度行っています。また、地域のボランティア活動として特別養護老人施設の窓拭きを平成二十年より毎年実施しており、地域貢献も子供の頃か習慣づけています。これからも生涯剣道を通じていける剣士を育てていきたいと思っっています。

稽古日と時間

毎週火・木曜日
午後六時～七時三十分

稽古内容と指導要点

基本稽古を中心に楽しい稽古を目指しています。大きい声を出すこと、剣道の所作をしっかりすること、指導者自ら実践するようにしています。挨拶やご両親への感謝を忘れずに、地域でも活躍できる子供に育つよう指導しています。

本道場の特色

幼稚園児から小学生の指導が中心ですが、同じ体育館内で中学生・一般の稽古も行われているので、連携して指導に当たっています。「昇龍の志」を胸に前に出る剣道を実践しています。子供の数は少ないですが、「やる

最近の主な試合結果

平成三十年 五城目署管内
青少年健全育成剣道大会 三位
湖竜旗争奪少年剣道大会 三位
低学年の部 三位

会費

年会費 高学年 一万円
低学年 五千円
(大会参加費を含む)

門弟数

幼・小学生 十四名
中学生 十一名

指導者数

十一名(スポーツ少年団認定員登録指導者)

発足と開設

旭南スポ小剣道部の保護者同士が大人の稽古時間を作ろうとして平成二十一年六月頃に始めました。

稽古日と時間

毎週土曜日 午後六時～八時迄

稽古内容

社会人が中心の練習ですので、第

旭南剣友会

代表者 新泉 博智

稽古場所

旭南地区コミュニティセンター

二階

発足と開設

旭南スポ小剣道部の保護者同士が大人の稽古時間を作ろうとして平成二十一年六月頃に始めました。

稽古日と時間

毎週土曜日 午後六時～八時迄

稽古内容

社会人が中心の練習ですので、第



一は怪我など無いように。基本の切返し打ち込み、技練習をして、地稽古などで汗を流しています。特に決まった時間制限等は設けていませんので、打ち込みや技練習に時間を掛けた人はそれなりに、地稽古を中心に稽古をしたい人も、お相手と話し合いながら稽古しています。

●本剣友会の特色

基本的には誰でも、いつでも参加自由をモットーに運営していますが、挨拶と礼儀は大切にしていこうと声をかけあっています。参加者はそれぞれに仕事や家庭や学校の関係で毎週必ず参加できるとは限りませんが、剣道に対する取り組み方も様々ですので、その部分に関しては参加者の意思を尊重し、自由に活動して貰うようにしています。

●指導者

四段、五段の方々と相互に指導

●会員数 社会人十名 学生数名

●試合参加等

市民大会等 昇段審査会

●会費

年会費三千元（社会人）

一回につき百円（臨時参加等の方）

学生は無料。小学生以下は保護者の付添が必要です。



左から、佐藤邦男先生（御所野剣道スポーツ少年団）、鎌田英夫先生（能代淳城剣道スポーツ少年団）、荒砂誠先生（藤木剣道場）です。

三十年度各賞受賞者

◎平成三十年度 全日本剣道連盟

「剣道有効賞」

木内 直幹（秋田県剣道連盟副会長）

「少年剣道教育奨励賞」

八郎瀧剣道スポーツ少年団

◎平成三十年度 秋田県剣道連盟

「幼少年指導奨励賞」

秋田市剣道連盟：

御所野剣道スポーツ少年団

佐藤 邦男

能代山本剣道連盟：

能代淳城剣道スポーツ少年団

鎌田 英夫

大曲仙北剣道連盟：

藤木剣道場 荒砂 誠

二十九年各賞受賞者

◎平成二十九年各賞

秋田県剣道連盟表彰

（功労賞・本田賞・小笠原賞・その他表彰）

「功労賞」 該当なし

「本田賞」

第三十回全国健康福祉祭

あきた大会

団体優勝 秋田県Aチーム

監督 菅原 孝雄

選手 木内 直幹 平元 誠

小松 幸円 伊藤 忠善

小松 晃 佐々木 寛

後藤 稔

第四十七回魁星旗争奪

全国高校勝抜剣道大会

団体ベスト8 秋田南高校

監督 金森 康臣

選手 及川 拓 東海林真之介

加藤 将太 土田 竜矢

淡路優太郎 後藤 大和

菅原 義仁

「小笠原賞」

第十七回毎日レディース剣道大会

すみのの部

（小学生女子二名＋中学生女子一名）

団体優勝 雄信館内山道場

監督 及川 昭

選手 佐藤 悠月 菅原 陽菜

及川日菜子

全国道場少年剣道選手権大会

第三十五回小・中学生の部

小学生女子個人の部 第三位

選手 高橋 秋羽（修武館）

三十年度七段・六段・称号合格者

剣道七段

植田 厚（由本に）愛知 5月12日

佐藤 文法（大館北秋）青森 8月18日

杉山 忠幸（秋田市）青森 8月18日

工藤 猛彦（大館北秋）愛知 11月17日

目黒 大祐（横手市）東京 11月27日

大友 理宣（湯沢雄勝）東京 11月28日

剣道六段

三井 康平（秋田市）愛知 5月13日

廣谷 文利（秋田市）青森 8月19日

田口 真也（能代山本）青森 8月19日

中野 秀人（能代山本）青森 8月19日

加賀谷 竜一（大曲仙北）青森 8月19日

羽生 剛（秋田市）青森 8月19日

小坂 仲悦（横手市）青森 8月19日

榊原 賢（湯沢雄勝）青森 8月19日

丹尾 覚（湯沢雄勝）東京 11月25日

荒木田 浩生（大曲仙北）東京 11月25日

藤田 豊貴（横手市）東京 11月25日

黒澤 忠利（湯沢雄勝）東京 11月25日

剣道教士

菊池 勇拓（男湯南秋）東京 11月27日

剣道錬士

石川 維範（大曲仙北）京都 5月6日

植田 秀幸（秋田市）京都 5月6日

岩井川 杏子（湯沢雄勝）東京 11月27日

沢田 武（秋田市）東京 11月27日

和賀 正由（湯沢雄勝）東京 11月27日

居合道六段

栗澤 秀明（秋田市）東京 11月17日

居合道錬士

谷本 淳（大館北秋）東京 11月27日

根本 暢幸（大曲仙北）東京 11月27日

杖道錬士

大畑 博正（秋田市）京都 5月3日

第57回全日本女子剣道選手権大会に出場して

秋田北高等学校教諭 加藤 由佳

このたび、第五十七回全日本女子剣道選手権大会に出場することができ、とてもうれしく思います。今回の大会で十回目の出場を果たすことができたのは、諸先生方の御指導のおかげであります。これまでに稽古をつけていただきました多くの先生方、いつも温かく励ましていただいている高体連の先生方に感謝しております。

十回の上場を振り返ってみると、初めて出場できたのは秋田国体が開催された平成十九年でした。選手として国体に出場することは叶いませ



んでしたが、国体に向けた強化練習があったからこそ予選を勝ち上がることができたと思います。初出場を果たしてから十回出場するまでに二度予選で負けました。また、全日本女子選手権で一回戦を勝ち上がったのは二度しかありません。県内では負けたくない、全日本に出ても勝てない、と負けても勝っても苦しいと思う時がたくさんありました。しかし、回数を重ねる（年齢を重ねていく）中で大会への考え方も変わり、ここ数年は出場選手の中でも数少ない同年代の選手と励まし合いながら、この大会に出て試合ができるだけに幸せなことなのだと思います。

りました。良い意味で力が抜けた分、インターネットの普及により動画で試合が見られてしまうようになり、ある意味で緊張感が増したかもしれせん。

全日本女子選手権で対戦させていただいた選手に内田さくら選手（静岡）・西香織選手、下川美佳選手（鹿児島）・渡邊タイ選手（熊本）・阿部美洗選



出場10回を記念して全剣連より贈呈された胴

手（東京）・高橋萌子選手（神奈川県）など有名な選手ばかりで、毎年、組み合わせが厳しい大会であります。勝ち上がらないと対戦できないような選手ばかりと試合をすることができ、私の剣道人生においてとても貴重な経験をさせてもらっていると感じています。この経験を生かし、自分の剣道をさらに発展させられるよう精進していきたいと思っております。

また、教員という立場でもありますので、経験したことをこれからの秋田県を担っていく選手たちに伝えていき、秋田県の女子剣道に少しでも貢献できるように尽力していきたいと思っております。

広報委員会からお知らせ

剣道人口の拡大を図るために各郡市で行われている大会の結果や、取り組みの状況をホームページに掲載していきたいと考えています。

情報がありましたら、記事の内容や写真などをFAX、できれば電子データで送ってください。

広報委員会ホームページ担当

鹿子澤 浩美

（連絡先）

E-mail: shukenren@gmail.com

編集後記

これまでテレビで視聴できる剣道の試合は、全日本選手権大会に限られていましたが、昨年末にはケーブルテレビで世界選手権大会と全国警察官大会が放映されました。一昨年より魁星旗争奪高校剣道大会も生配信され、スマートフォンで視聴できるようになりました。さらにYouTubeではあらゆる試合がアップされています。

インターネットで簡単に情報を手に入られる今、紙媒体である広報誌の役割を見直す時期にきているように感じています。

編集

秋田県剣道連盟広報委員会

芳谷 正人、石田 泰男

伊藤 隆、辻 文彦

鹿子澤浩美、筒井 洋美

岩船 志保